(仮称) 江坂計画 環境影響評価書案に対する吹田市環境影響評価審査会委員等からの意見と回答①

	意見	回答
1	<p>P.3-3 3.3.4 事業計画の概要</p> <p>寄付用地に吹田市が作る保育所があるが、これについては上手く連携して、次回には方針を示してほしい。</p>	<p>保育所の建物規模等については、吹田市において検討されるため、事業者からは回答いたしかねます。</p> <p>【吹田市】</p> <p>吹田市では昨年12月に計画地内の当該用地を保育所建設用地として寄付を受けることを決定しました。しかしながら規模などの詳細の決定は、R7年度に実施する公募要件策定時となります。(保育所の建設、運営を行う事業者はR8年度に公募で決定する予定)</p> <p>このため現在すでに手続が進んでいる共同住宅等と合わせての環境影響評価が難しいため、保育所に係る影響についての評価は別途、R7年度の公募要件策定時に改めて実施することとします。</p> <p>なおその時点では、共同住宅等の計画は既に評価書と事後調査計画書を提出し、造成工事に着工していますが、現時点の予定では建築工事の開始までには保育所の環境影響評価も終了する見込みです。</p>

(仮称) 江坂計画 環境影響評価書案に対する吹田市環境影響評価審査会委員等からの意見と回答②

	意見	回答
2	<p>P. 3-21, 12. 17 交通安全</p> <p>工事車両の通行に関して、周辺に十分配慮してください。神崎川の堤防道路等に出た方が影響は少ないと考えられますので、南側の物流センター敷地内や北越コーポレーション敷地内通路などの通行可能性を検討し、小学校横の道路を通行する工事関連車両を極力減らすようにお願いします。</p>	<p>ご意見いただきました工事車両の通行ルートにつきましては、以下の理由により想定しておりません。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 事業計画地から神崎川堤防道路に向かう東淀川区第 1466 号線は、一部区間において大型車での離合が困難な箇所があるため、現時点で工事車両の走行ルートとして選定しておりません。 ・ 本件東側を北上するルートに関しましては、事業地東側の住宅地付近での大型車走行は道幅も狭いことから安全上問題があるのでやめてもらいたいと意見交換会において住民の方からご意見をいただいていることから、現時点で工事車両の走行ルートとして選定しておりません。 ・ 事業計画地南側の他事業者敷地内通路に関しましては、一般道路ではなく、また、前述のとおり神崎川方向及び東側からのルートを選定していないことから、当該通路を利用する必要はないと考えております。 <p>なお、工事の実施にあたっては、工事車両台数の削減に努め、走行時間帯も検討するなど児童の通学時の安全には十分配慮いたします。</p>
3	<p>P. 3-22 3. 3. 7 周辺環境に配慮した事業計画検討の概要</p> <p>事業区域周辺に関する記述がありませんが、事業区域南側には大規模物流施設があります。</p> <p>本事業の完成後入居者から物流施設に対する騒音、振動等の苦情が無いよう、入居者に入居前に説明して下さい。</p>	<p>販売時の重要事項説明時に南側に存在する物流施設など周辺施設については、騒音・振動が発生する可能性も含め、入居前に説明いたします。</p>

(仮称) 江坂計画 環境影響評価書案に対する吹田市環境影響評価審査会委員等からの意見と回答③

	意見	回答
4	<p>P.6-2 表6-1(2) 提案書意見交換会における意見の概要及びこれに対する事業者の見解</p> <p>「その他」意見概要として、砂ぼこりについての懸念が示されていることについて。</p> <p>事業者の見解では、砂ぼこり対策として「種子散布」と「草本類の自生」しか対策が示されていません。近隣住民から苦情が発生しないような実効性のある対策を講じてください。</p>	<p>種子散布を検討中に事業計画地内では草本類が自生することにより、砂埃の発生が抑制されています。この状況についてはご意見いただいた住民の方にも報告を行っています。一方で、秋季に草本類の種子の拡散による苦情が発生したため、根本から約10～20cm程度を残して刈り取りを行っています。現在、砂埃の発生は抑制されています。<u>別紙1</u>に示す状況となっています。</p> <p>また、工事中は敷地周囲に万能塀やメッシュシート等を設置するとともに敷地内において適宜散水を行うなど砂埃対策を実施します。</p>
5	<p>P.6-3 表6-1(3) 提案書意見交換会における意見の概要及びこれに対する事業者の見解</p> <p>北側の道路のゴミ置き場問題。地域の方から、移されると困ると聞いている。あそこをどのように処理するっていうのは、今後検討していくということか。</p>	<p>北側道路拡幅の仕様につきましては、吹田市道路管理者と事業者が協議しながら、これから決定いたします。また、事業者が地元の集積施設を同じ場所につくるということはしませんので、現状の集積場所としてどうされるかという点については、地域の方に吹田市と協議していただくこととなります。</p> <p>なお、工事の状況により仮設置場が必要となる場合には関係課と協議いたします。</p> <p>【吹田市】</p> <p>北側道路の拡幅部分には、歩道を設置する計画で、現在の道路部分に変更されない予定です。ですので、現在ごみの集積場所として利用されている車道の一部は、従前と全く変わりなく、御利用いただけます。</p>

(仮称) 江坂計画 環境影響評価書案に対する吹田市環境影響評価審査会委員等からの意見と回答④

	意見	回答
6	<p>P.10-2 当該事業における環境取組内容 10.2.6 防災</p> <p>示されている『マンホールトイレの設置』について、設置予定場所の表記もお願いします。</p> <p>マンホールトイレを設置するに際し、① トイレを待つ方々のキューラインの想定、② 入居者以外の地域住民の利用も受け入れる場合の動線計画、③ 降雨・猛暑・強風等の影響を受けにくい場所、についてもご検討下さい。</p>	<p>マンホールトイレは屋外に設置を計画しております。設置場所につきましては、汚水のマンホールの設置位置が決まり次第、計画いたします。</p> <p>ご意見にある利用者の待機列の想定や降雨・猛暑・強風等の影響を受けにくい場所という条件に加えて、エントランスから視認されない、臭気溜まりになりにくい等の条件を考慮し、計画いたします。</p> <p>また、事業計画地内に設置するマンホールトイレは、基本的に居住者の使用を想定しており、外部からの利用は計画しておりません。</p>
7	<p>P.10-3 表10-1(1)環境取組内容(工事中その1) No.9</p> <p>大阪府条例に基づく流入車規制の遵守の項目がありますが、流入車規制は廃止になったと思いません。記載されていても問題はないですが、修正の機会があれば、削除しても良いと思いました。</p>	<p>取組内容の記載について、「大阪府条例に基づく流入車規制は廃止されましたが、規制以上の排出ガス性能の良い車両の使用に努めます。」と変更いたします。</p>
8	<p>P.10-8～12 表10-1(6)～(10) 環境取組内容(施設・設備等)</p> <p>環境取組内容については、今後評価書の作成に向けて、No.67,68 ヒートアイランド対策、No.77～79 水循環の確保等、より多くの項目で、できるだけ多くの具体的な実施内容を計画し、さらなる環境配慮を行うこと。また、それらについては面積、容量など数値も示すこと。</p>	<p>評価書において、ヒートアイランド対策として実施する集合住宅屋上部に遮熱性塗装(約4,300 m²)を採用することによる建物の屋根面の高温化抑制、道路沿い及び敷地の高木植栽による緑陰形成や中低木植栽などの樹木緑化、法面などの草本緑化などによる地表面の高温化を抑制など具体的な実施内容を記載します。</p> <p>No.77～79 水循環の確保として、散水等に雨水を利用する設備(雨水タンク約700ℓ)の導入や雨水流出を抑制するために雨水貯留型施設(東地区3基、西地区3基、計約1,200 m³)を設置するなどの実施内容を記載します。また、その他の項目についても可能な限り具体的な実施内容、面積、容量等の記載に努めます。</p>

(仮称) 江坂計画 環境影響評価書案に対する吹田市環境影響評価審査会委員等からの意見と回答⑤

	意見	回答
9	<p>P. 10-11 表 10-1 (9)環境取組内容 (施設・設備等その 4) No. 98</p> <p>屋外広告物を設置する場合は、基準を遵守するだけでなく当該地における良好な景観形成が図られる計画となるよう「吹田市屋外広告物ガイドライン」を踏まえていただくとともに、早期の段階から、市の屋外広告物担当部局と協議を行ってください。</p>	<p>現時点で屋外広告物を設置する計画はありませんが、事業計画地において、屋外広告物を設置する場合は、基準を遵守するだけでなく当該地における良好な景観形成が図られる計画となるよう「吹田市屋外広告物ガイドライン」を踏まえるとともに、早期の段階から、市の屋外広告物担当部局と協議を行います。</p>
10	<p>P. 12-1-18 ④評価 b. 評価結果</p> <p>「本事業計画は、今後、詳細設計を進めていくことから現時点で実施する対策を含めた計画全体での予測が困難」としているが、掲げている建物全体での一次エネルギー削減目標 25%を担保する具体的な取組について、可能な限り定量的に示すこと。</p>	<p>計画建物において、断熱等性能等級 5 の取得をはじめ、潜熱回収型給湯器や高効率空調器などの設置により、建物全体での一次エネルギーの 25%削減を目指していますが、今後行う詳細設計において、具体的な内容を決定してまいります。</p> <p>なお、一次エネルギーの 25%削減につきましては、別紙 2 に示す事例を参考としています。</p>
11	<p>P. 12-1-18 ④評価 b. 評価結果</p> <p>建築物に係る環境に配慮した設備導入による一次エネルギー削減を目指すだけでなく、居住者のライフスタイルの転換についても合わせて重要であるため、調査した先進的な環境取組などを参考に、居住者の省エネ・省 CO2 行動を促すエネルギー使用状況等の見える化やマニュアル配付等も取り組むこと。</p>	<p>吹田市において取組が進められている省エネ・省 CO2 についての情報、「環境まちづくりガイドライン ライフスタイル版」、「吹田市民のための低炭素生活指針」など入居時に最新の情報にふれることができるよう、入居時に周知するなど居住者の省エネ・省 CO2 行動を促進します。</p>
12	<p>P. 12-1-18 ④評価 b. 評価結果</p> <p>太陽光パネルの設置については、設置可能スペースや発電電力量の使用用途に占める割合などを十分考慮した上で、具体的な設置計画を示すとともに、定量的な観点からも発電容量の増加について検討すること。</p>	<p>太陽光パネルによる電力は、共用部の電灯などに利用する計画です。(想定消費電力量：約 4,000 kWh/年)</p> <p>西地区、東地区の住棟屋上部にそれぞれ太陽光パネル 10kw (計 20kw、想定発電量:約 21,000 kWh/年) を設置する計画ですが、設置場所につきましては、今後行う詳細設計において、具体的に決定してまいります。</p>

(仮称) 江坂計画 環境影響評価書案に対する吹田市環境影響評価審査会委員等からの意見と回答⑥

	意見	回答
13	<p>P. 12-2-4 廃棄物（２）調査結果 ②関係法令等による基準等</p> <p>「吹田市建設汚泥の自ら利用に関する指導要領」、「吹田市がれき類の自ら利用に関する指導要領」、「環境省通知」及び「吹田市産業廃棄物の不適正な処理の防止に関する条例」の概要を記載してください。</p> <p>遵守していただきたい内容は、下記の事項となります。（表 12-2-4 の本法律は、・・・と同様に記載してください。）</p> <ul style="list-style-type: none">・工事に伴い発生した建設汚泥を自ら利用する場合は、吹田市建設汚泥の自ら利用に関する指導要領に従うこと。 <p>ただし、民間工事で工事完成後に建築物の所有権の移転が予定されている場合、工事に伴い発生した建設汚泥を自ら利用することはできませんので注意してください。</p> <ul style="list-style-type: none">・工事に伴い発生したがれきを自ら利用する場合は、吹田市がれき類の自ら利用に関する指導要領に従うこと。・工事において地下工作物の存置する場合は、令和 3 年 9 月 30 日付け環境省通知（環循適発第 2109301 号、環循規発第 2109302 号）中の「第 3 地下工作物の取扱いについて」に従うこと。・工事現場の外において自らの産業廃棄物の保管を行う場合で、廃棄物処理法または吹田市産業廃棄物の不適正な処理の防止に関する条例の要件に該当する場合は所定の届出を保管する前に行うこと。	<p>「吹田市建設汚泥の自ら利用に関する指導要領」、「吹田市がれき類の自ら利用に関する指導要領」、「環境省通知」及び「吹田市産業廃棄物の不適正な処理の防止に関する条例」の概要を記載いたします。（別紙 3）</p> <p>また、工事実施の際には、ご意見の内容に留意いたします。</p>

(仮称) 江坂計画 環境影響評価書案に対する吹田市環境影響評価審査会委員等からの意見と回答⑦

	意見	回答
14	<p>P 12-2-8 廃棄物</p> <p>発生土の予測として、杭工事からの汚泥を発生土としてカウントされていますが、杭工事から発生する汚泥は建設汚泥となり廃棄物に分類されず。廃棄物の発生量としてカウントし、工事実施者の実績等からリサイクル量と廃棄物発生量を予測する必要があると考えます。</p>	<p>事業者の類似工事実績では、直近3年の類似事業の杭工事による発生汚泥のリサイクル率は、100%となっております。これを踏まえ、汚泥について表 12-2-10 に記載し、予測結果内容にも追記いたします。</p> <p>なお、本工事に伴い発生した建設汚泥を自ら利用する計画はありません。</p>
15	<p>P. 12-2-8 廃棄物 工事の実施に伴う影響の予測・評価 (3) 予測結果 ②発生土</p> <p>記載されている汚泥は、産業廃棄物に該当するため、「①建設廃棄物」の「表 12-2-10 新築工事による廃棄物発生量及びリサイクル量」に記載してください。</p> <p>また、そのことに伴う「(3) 予測結果」全体の記述も変更してください。</p> <p>本市HPに掲載している「掘削工事に伴う汚泥と土砂の判断区分について (第6版)」を参考にしてください。</p> <p>なお、上記4の吹田市建設汚泥の自ら利用に関する指導要領で民間工事において工事完成後に建築物の所有権の移転が予定されている場合、工事に伴い発生した建設汚泥を自ら利用できませんので注意してください。</p>	
16	<p>P. 12-4-1 悪臭 現況調査 (1) 調査内容</p> <p>近隣に「南吹田下水処理場」をはじめ、数多くの事業所があるため、事業所からの臭気について、事前に入居者に説明してください。</p>	<p>販売時の重要事項説明書での案内を予定しております。</p>
17	<p>P. 12-6-1 騒音 現況調査 (1) 調査内容</p> <p>近隣に工場、物流配送施設等があるため、当該工場等からの騒音・振動等について、事前に入居者に説明してください。</p>	<p>販売時の重要事項説明書での案内を予定しております。</p>
18	<p>P. 12-6-4 騒音 工事の実施に伴う影響の予測・評価 (1) 建設機械等の稼働</p> <p>特定建設作業を実施する場合は「吹田市環境の保全等に関する条例」第5条の規定に基づき、住民への説明を確実に行ってください。</p>	<p>工事内容につきましては、工事着手前に近隣住民への説明を行います。</p>

(仮称) 江坂計画 環境影響評価書案に対する吹田市環境影響評価審査会委員等からの意見と回答⑧

	意見	回答
19	<p>P. 12-6-14 騒音 (1) 建設機械等の稼働 ③ 予測結果</p> <p>事業者の予測では、事業区域南側が最大として予測されていますが、南側よりも北側の方が住民が密集しているので、「12.7 振動」と同じように北側も予測を立てて下さい。</p>	<p>騒音及び振動の工事中、建設機械の稼働による影響につきましては、その影響をコンタ図で示した上で、最大影響地点を図示しております。なお、北側敷地境界における騒音の最大影響地点は、<u>別紙4</u>のとおりです。</p>
20	<p>P. 12-10-12 景観 景観の変化の程度 地点番号2</p> <p>前回事業者の説明はなかったが、12-10-10 ページを見ると、マンションの板状住棟のファサードをどうするかということで、住棟ではなく意匠を、表面の形態を分節化させている。少し色が濃すぎるといのは検討の余地はあるかもしれない。こういった意匠の検討については、もっと御説明いただきたい。</p>	<p>評価書案に掲載している検討過程についてご説明いたします。</p> <p><u>別紙5 - 1</u>に示すとおり、当初計画は、ベースの外壁はグレー (N5) とし、ベランダの鼻先はランデックスコート (5Y6/0.5)、ベランダはガラス手摺 (合わせガラス: 透明) を使用する計画としていました。</p>
21	<p>P. 12-10-12 景観 景観の変化の程度 地点番号2</p> <p>南側の方は、工場用地として使われていたことを踏まえても、ファサードがかなり長大で、色彩も暗めになっている。せっかく 12-10-10 ページでは意匠による分節等のいろんな工夫をしているということなので、そこはもっと説明してほしい。</p>	<p>全体に変化がなく横に伸びる住棟となったことから、<u>別紙5 - 2</u>のように、ベランダのガラス手摺をファイングレーにし、住棟中央付近にマリオンを設置し、軒裏のリシン吹付により、住棟を縦分節しました。</p> <p>更に検討を行い、<u>別紙5 - 3</u>のようにベランダ手摺を透明とし、軒裏のリシン吹付の色彩をダークグレーと木色単色に区分することにより住棟をフレーム型に分節するとともに水平に分節させました。</p>
22	<p>P. 12-10-12 景観 景観の変化の程度 地点番号2</p> <p>この件については、前回、客観的な説明が、どういう理由で、どういう基準で、これが一番いいと思ったかというのがはっきり示されなかった。やはり基準を示していただいて、この案がいいということを説明してほしい。</p>	<p>最終的には、<u>別紙5 - 4</u>のとおり、一部区画の壁面において弾性ふっ素樹脂塗装を木色単色でおこなうことによりアクセント住戸を設定し周辺からの見え方に変化を持たせた計画としました。また、周辺に高木を含め樹木を植栽することにより、歩行者からの視線に対して配慮する計画としています。</p>
23	<p>P. 12-10-12 景観 景観の変化の程度 地点番号2</p> <p>建物自体が大きいからなかなか難しい面はあると思うが、いろいろと検討されたということなら、その検討の経緯を順次説明していただく、検討した結果、やっぱりここまでなのかなというのがわかる、そういう説明を、是非お願いしたい。</p>	

(仮称) 江坂計画 環境影響評価書案に対する吹田市環境影響評価審査会委員等からの意見と回答⑨

	意見	回答
24	<p>P. 12-10-13 景観 景観の変化の程度 地点番号 3</p> <p>東側の景観は、モンタージュでもかなりの圧迫感がある。また、全く分節には見えず、多少色遣いを変えているだけのように見える。</p> <p>吹田市内の良好な住環境に対する影響を最小限に抑えるために、当該部分のセットバックやボリュームの低減(階数の削減)について再検討をして頂きたい。</p>	<p>東地区の東住棟につきましても、前述の西地区南住棟と同様の検討過程となります。</p> <p>別紙6-1に示すとおり、当初計画は、ベースの外壁はグレー(N5)とし、ベランダの鼻先はランデックスコート(5Y6/0.5)、ベランダはガラス手摺(合わせガラス:透明)を使用する計画としていました。</p>
25	<p>P. 12-10-13 景観 景観の変化の程度 地点番号 3</p> <p>東側の景観はだいぶ近景域で、既存住宅からの見えがかりとか、かなり圧迫感があるのではないかと。モンタージュを見ても、ファサードがちょっと暗めな感じになっているのも、配色とか、そういうのが圧迫感に影響しているのではないかと思う。</p> <p>分節等いろいろトライアルされているということだが、あまり効果が出ていないと思うので、もう少し検討いただけるように感じている。</p>	<p>全体に変化がない住棟となったことから、別紙6-2のように、ベランダのガラス手摺をファイングレーにし、住棟中央付近にマリオンを設置し、軒裏のリシン吹付により、住棟を縦分節しました。</p> <p>更に検討を行い、別紙6-3のようにベランダ手摺を透明とし、軒裏のリシン吹付の色彩をダークグレーと木色単色に区分することにより住棟をフレーム型に分節するとともに水平に分節させました。</p>
26	<p>P. 12-10-13 景観 景観の変化の程度 地点番号 3</p> <p>南北住棟の東面だと思うが、戸建住宅の方の近景から見ると、この近距離でいった時に、あの住棟のボリュームでは絶対圧迫感が出る。ある意味仕方がないかなと思う。次にボリュームを修正するということと言えるのか。</p> <p>ただ、南側については12-10-10ページのような意匠の検討、工夫があるが、東側についてはどうなのか。このファサードを評価するには、その圧迫感に対して意匠の工夫で十分に検討したという説明が必要。</p>	<p>最終的には、別紙6-4のとおり、一部区画の壁面において弾性ふっ素樹脂塗装を木色単色でおこなうことによりアクセント住戸を設定し周辺からの見え方に変化を持たせた計画としました。また、景観地点3からは戸建て住戸に隠れてしまいましたが、東敷際に高木を植栽することにより、北東から南東の区間で事業計画地が見通せる地点での歩行者の視線に対して配慮する計画としています。</p>

(仮称) 江坂計画 環境影響評価書案に対する吹田市環境影響評価審査会委員等からの意見と回答⑩

	意見	回答
27	<p>P. 12-10-14 景観 景観の変化の程度 地点番号 4</p> <p>北側の景観は、駐車場の壁面が大きく出ていて、ちょっと圧迫感が感じられる。このあたりも何か工夫の余地はないか。</p>	<p>事業計画地北側道路からの景観につきましては、地点番号 4 付近は計画地より地盤が高く計画地への見通しが良い地点となっています。地点 4 の東側の開発道路接続部付近は別紙 7-1 のとおり計画地と同じ地盤高さとなっています。事業計画地への見通しの良い箇所に対して、事業者としましては、現計画において高さのある住棟を南に配置し、それより低層の駐車場はできる限り住棟に近づけて配置することにより、北側の周辺住戸からの離隔を確保する、北側道路の歩行者等の視界に緑が入るよう敷地に植栽を行うなどの配慮を行う計画です。</p> <p>また、駐車場壁面の色彩等につきましては、別紙 7-2 に示す塗装候補から、住棟建物の色彩と違和感のないものを選定しています。</p>
28	<p>P. 12-13-1 文化遺産 12.13.1 現況調査</p> <p>当該地、吹田市南吹田 4 丁目 4500 番 22 外 6 筆</p> <p>(仮称) 江坂計画地は、五反島遺跡に当たるため、工事着手の 60 日前までに文化財保護法第 93 条の届出を行って下さい。なお、事前に発掘調査等が必要ですので文化財保護課と協議して下さい。</p>	<p>工事着手の 60 日前までに文化財保護法第 93 条の届出を行います。</p> <p>また、発掘調査等の実施につきましては、引き続き、文化財保護課と協議いたします。</p>
29	<p>P. 12-13-1 文化遺産 表 12-13-2 埋蔵文化財の状況</p> <p>今回発行されました『(仮称) 江坂計画 環境影響評価書案』につきましては、12-13-1 ページ掲載の「表 12-13-2 埋蔵文化財の状況」において記述に誤りが見られました。表内の「垂水南遺跡」の「種類」の欄に『集落跡、生産遺跡』とありますが、大阪府地図情報提供システムでは『集落跡』となっていますので、訂正いただきますようよろしくお願いいたします。</p>	<p>「表 12-13-2 埋蔵文化財の状況」の記載内容を修正いたします。</p>
30	<p>P. 12-13-4 文化遺産 ②評価結果</p> <p>建築確認申請書を提出される場合は、文化財保護課が発行する裏書を添付する必要がありますので、別途手続きを行って下さい。</p>	<p>建築確認申請書を提出する際には、ご意見のとおり、別途手続きを行います。</p>

(仮称) 江坂計画 環境影響評価書案に対する吹田市環境影響評価審査会委員等からの意見と回答①

	意見	回答
31	P 12-14-6 自然災害危険度・地域防災力 液状化の発生予測ですが、河川周辺ということで地盤条件によっては液状化リスクが高い可能性が指摘されます。事業計画地でのボーリング調査結果があるのであればP L値は推定できると思いますので、その推定結果に基づいて対応を検討してはいかがでしょうか？	事業計画地において実施したボーリング調査結果をもとにP L値を推定し、対応等を検討しています。建物の出入口部及び付属棟・地下工作物（電気室、防火水槽等）を設置する箇所へ適切な液状化対策を実施することにより、設備の被害防止を図ります。
32	P. 12-14-46 表 12-14-36（2）大阪府防災力強化マンション認定基準及び実施項目 防災力強化マンションについては、居住者が申請さえすれば認定が取れるよう、必要な基準を十分精査して設計、施工すること。また、認定の担保性を高めるため、基準の充足について予め認定者である府と協議等を行うとともに、その協議等の結果を居住者に適切に引き継ぐこと。	評価書案において、本計画の防災に対する設備計画等を示すために記載した大阪府防災力強化マンション認定基準のうち、外部からの避難を受け入れる津波避難ビルの指定は防犯上の観点から実施不可と考えております。それ以外の現計画において適合する条件につきましては計画とおり実施いたします。 なお、基準との適合状況等につきましては、詳細設計を実施する過程において、大阪府と協議を行ってまいります。
33	P. 12-15-7 コミュニティ これだけの大規模マンションが建設されるにあたり、小学校の児童数のキャパシティは大丈夫か。	販売時に入居時期をずらすなどの配慮を実施する計画です。今後、環境影響評価手続きや開発協議等を含めた事業工程の進捗に合わせ、教育委員会と協議を行ってまいります。